



支援事業終了報告

土佐市文化協会訪問団来江

江別文化協会

総務部長 後藤 一昭

土佐市・江別市友好都市提携40周年記念 第12回土佐市・江別市交流文化祭が、平成30年9月23日(日)午後より大麻えぼあホールにて開催されました。

土佐市より伊藤博史文化協会会長、金子美和子文化祭実行委員長を始め8グループ総勢31名のメンバーにより、発表いただきました。

第9回総合芸術フェスティバルを兼ねておりましたので、土佐市・江別市両市合わせて3部16演目の発表となり、すばらしい文化交流が実施できたと思います。発表前日には、舞台稽古、舞台



第87号

支援事業のご報告

江別青年会議所

副理事長 中川 正隆

江別青年会議所は1971年に設立され、本年度48年目を迎えます。私たちは年齢や職業が多様な20歳から40歳までの青年で構成されており、「明るい豊かな社会の実現」を目的に、「自己の修練・世界との友情・社会への奉仕」という理念で活動しています。

昨年5月、江別市コミュニティセンターにて、講師に、北の箸工房よし膳 店主高橋義人様(通称:プーさん)をお招きし、江別市にお住いのご家族75名を対象に、5月第一例会「親子で箸づくり/プーさんの箸育」を開催いたしました。私たち日本人が必ず使用する道具、箸を題材にして、箸の正しい使い方や他を思いやる心、食べられることへ感謝する心を学んでいただきました。箸づくり体験では、あらかじめアワビの貝殻や卵殻が張り付けてあり、その上から幾重にも色が塗り重ねられてある福井県小浜市の若狭塗り箸を、紙やすりを用いて研ぎ出しを行いました。研ぎ出し方によって様々な模様が出てくるので、大人も子供も夢中になって、世界に一膳だけのMY箸を作成していらつしました。そして、作成した箸は、各ご家庭にお持ち帰りいただいたので、大変好評いただきました。

箸は私たち日本人にとって大切な道具です。食事は勿論のこと、人生の最期に骨を拾う際にも箸は用いられ、日本の文化に深く根差してい

ます。だからこそ、所作やマナー、育ちや教養があらわれるといっても過言ではありません。本事業を開催した私たちも、あらためて身近なものから自分を見つめ直す良い機会となった事業となりました。



江別青年会議所では、「まるごと江別」イベントスノーフェスティバル」など全市民を対象とした事業から、小さいお子様に向けた心の醸成事業、若者が自らの意思をもちづくりに反映させ未来のまちを創造する事業など、本年度も様々な事業を行い、持続的なまちづくり運動を展開してまいります。

支援事業の御礼

江別市女性団体協議会

会長 工藤 多希子

ら・ら・ら84号でも掲載していただきました「第40回えべつ女性協まつり」に支援金をいただき、心より感謝申し上げます。

当会の円滑な運営のために活用させていただきます。報告申し上げます。



【会員の活動紹介】 江別更生保護女性会

「子ども食堂の立ち上げ」

江別更生保護女性会 早瀬美知子

私たちは孤食の多い子供たちの現実を知り、青少年の健全を願う更女会として『何かをしなければ』子供たちの居場所づくりを...という思いで取り組みました。そんな中、日本更生保護女性連盟から「地域との連携・協働活動推進モデル地区」に選定されて資金を受けられることになりました。これを使って子ども食堂を実施する事を考え、子供たちの楽しい居場所が少しでも増えてくれる事を願ったのです。立ち上げるには更女会の皆さんの賛同が第一条件です。理事会での話し合いを続けつつ、ここに食堂実行委員の方々と協議も同時進行で行いました。7月から社会福祉協議会でお部屋を借りて行っている母子会主催の勉強会を、10月から静苑ホームのお部屋をお借りして対雁小学校の児童を対象に食事支援を行う事にしました。実行委員会を立ち上げ、静



苑ホーム、社会福祉協議会、町内会有志、民生委員、読み聞かせボランティアや我々更女会と協議を幾度となく行いました。『だれがどのような役割を担うか、経費はどうするか、呼びかけはどのようにするか、実施日や内容はどのようにするか』などを話し合い、実施計画を練りました。学校や江別市へ報告・了承を得て、静苑ホームからはお部屋のみなならず食料の提供を受け、町内会には参加児童の募集回覧をしていただくことになり、日程を決めて回覧板を作成し、いよいよ開始です。ほどなく(株)菊水さん、オシキリ食品(株)さん、生活クラブ生協さん、新篠津つちから農場(株)さんと多くの方々の協力を得られました。これは今後の希望となりともありがたかったです。子ども食堂は一過性のものにしてはいけないと思っており、子供達に必要ながなくなるまで継続できることが望ましいと考えています。これから先も多くの方々の力で健やかに子供たちが成長していつてくれると信じています。

〈餅つき大会〉1月26日(土)

♪皆で、あんもちを作りました。初めての経験でした(お雑煮4杯お代り)民生児童委員のおじさんが頑張ってくれました。クリスマス会12月

皆で作ったクリスマスケーキは美味しいな。地域のおじ様のギターで歌声サロンです。



【会員の活動紹介】 江別子ども劇場

「江別に根付いて42年」

江別子ども劇場 運営委員長 佐藤 ひとみ

江別子ども劇場が、子育て文化団体として1977年に江別に発足してから42年がたちました。活動の内容を紹介すると、大きく二つの柱があります。一つはプロの生の舞台を親子で鑑賞することです。舞台で鑑賞出来る芸術作品は、人形劇から舞台劇、コンサートにサーカスやマジックなどのパフォーマンス、長い歩みの中ではバレエ公演を鑑賞したこともありました。全道の他の劇場と組んで、江別市内のホールや公民館施設に全国から上質な作品を呼んでいきます。親子で鑑賞することで絆も深まり情操の発達によいものと思います。もう一つの活動は生の体験活動です。毎年、酪農学園大学のローンと体育館をお借りして行っている「子どもまつり」やキャンプ、宿泊スキー、こども文化祭の運営と参加や各地域でのお楽しみ会など、様々な触れ合いの場を企画・実施しています。

この様な活動を通して地域の親や大人たちが繋がり合い、沢山の大人や子ども同士の関わりの中で子どもは心豊かに逞しく想像力を持ってほしいと願っています。そして育つのは子供だけではなく、大人も育ちあうという副産物もついてきます。前述の「子どもまつり」を実行するための実態のある団体として発足した「江別子ども劇場」です。1000人を超える会員がい

た。ピーク時に比べると現在は80人ほどの規模になりましたが、生の舞台と人と人が触れ合う生の体験を大事にしていきたいと思っています。

「江別子ども劇場」は、いつでも、だれでも会員になることが出来ます。会員になって一緒に活動しましょう！

次回鑑賞会 4月20日(土)

コミン・ホール 14:00開演

『柴田旺山 竹遊くたけあそび』

※竹のマリンバなど色々な楽器の演奏会です。会員になって一緒に鑑賞しましょう。



これからのイベント

◆江別更生保護女性会

○北海道胆振東部地震の復興チャリティー合唱の集い

日時/2019年3月10日(日) 13:00~

場所/野幌公民館 1F ホール

共催/野幌公民館

協力団体/江別市女性市団体協議会・江別市赤十字奉仕団野幌分団・江別市母子会・えべつ手話の会

内容/

- ①黙祷
 - ②講話「胆振東部地震緊急支援から感じること…」
江別市社会福祉協議会 堀 米岳満氏
 - ③合唱
- ※バザー・カフェコーナーの収益金を今年度は胆振東部地震に全額寄付を考えております。道民皆で応援しましょう!

◆江別市女性団体協議会

○第41回えべつ女性協まつり

日時/2019年7月7日(日)

9:30開場 10:00開演

場所/江別市民会館 大ホール

コーラス・フラダンス・日本舞踊・ヒップホップダンス・太極拳など

ジャンルの違う団体、個人が舞台上に立ちます。

入場料/大人(中学生~)500円 子ども(小学生)100円

《編集後記》

日増しに柔らかい日差しを感じる頃をむかえ、当会から、5月も今年度の最終号をお届けすることになりました。ちまたでは、「平成最後の」というフレーズが蔓延している気がします。実際いろいろなことが変わる兆しというか、変わらなければならぬ年でもあります。先駆けて、「ら・ら・ら」誌上で新しい試みをいくつか行いました。「まなぼう」コーナーでちよっと知ってほしい情報欄や、QRコードを使ったすぐできる手話レッスンという内容の情報発信もできました。今はこのような動画発信ができるんだと驚いています。

新年度から手話言語条例が施行されますが、タイムリーにお役に立てそうです。

ぜひ、みなさんも「ら・ら・ら」とスマホを片手に手話をはじめてみませんか? これからも活躍できる「ら・ら・ら」の発信に努めてまいります。どうぞ、ご参加、ご協力よろしくお願いたします。

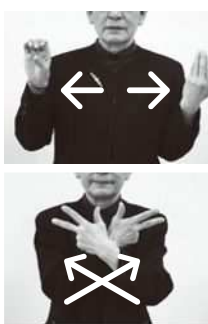
広報委員長 西懸 昭子

まなぼう

Vol.4

手話をまなぼう

「えべつ江北まちづくり会」は、平成30年12月3日、新たな取り組み活動として、平成19年4月1日からの市民活動団体特定非営利活動法人えべつ江北まちづくり会として新たな団体としてスタートいたしました。江北地域から江別市内の農村地域の都市と農村の交流に関する事業を行い、地域活性化と地産地消に寄与する事を目的に定めるとともに、保健医療や福祉の増進、社会教育、まちづくりの推進、観光、学芸文化、スポーツ、観光、環境、男女共同参画、こどもの育成等々の活動事業を図って参ります。その事業の目的達成のために、まずは、江別市内の農村地域のまちづくり(農村地域に人を呼び込む事業)及び都市と農村の交流(都市と農村の交流センター運営事業、地域住民福祉(アムンド交通事業)に関する事業を通して農村地域の活性化に更なる活動をして参ります。



「QRコードをスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていただくと、手話の動画がご覧いただけます。今回は江別に於ける地名の手話です。